

初期日本語指導シラバス

対 象：来日や編入まもない児童生徒

ねらい：学校生活を始めるにあたり、必要な基本的な言葉や表現を身につけ、在籍学級での学習につなげる。

※ このシラバスの順番どおりで進める必要はありません。

※ この内容は在籍学級に戻る目安としてご利用ください。

(新版「みえこさんのにほんご」を基に)

	学習過程	日本語学習の目標	身につけさせたい日本語表現や指導上の工夫 (※)
1	1 ひらがなを覚えよう	・ひらがな五十音の読み書きができる。	※ひらがなは五十音のあることを知り、書いたものを掲示するなどしていつでも目にできるようにする。 ※指導後も生活の中で意識して書く活動を取り入れていく。
1	2 あいさつをしよう	・日常生活におけるあいさつの用語を知り、使うことができる。	※場面設定をしながら、言葉のやりとりを練習させる。 ・おはようございます・こんにちは・こんばんは・さようなら ・ありがとう・ごめんなさい
1	3 名前を紹介しよう	・自分の名前を日本語で紹介したり書いたりすることができる。	・「わたしの名前は、〇〇です。」 ・「よろしくおねがいします。」 ※自分の持ち物に名前を書くことができるようにさせる。 ※名前を呼ばれたら「はい」と返事ができるようにさせる。
1	4 先生や友だちの名前を覚えよう	・先生や友だちの名前を言ったり書いたりできる。	A「あなたは、〇〇さんですか。」 B「はい、〇〇です。」「いいえ、〇〇ではありません。」 ・「この人は、〇〇さんです。」「となりにいる人は、〇〇さんです。」 ※できれば前・後ろなどの方向を表す言葉も合わせて指導する。
1	5 体の部分の名前を覚えよう	・体の部分の名前を覚え、体調が悪いときに言うことができる。	・頭・耳・目・鼻・口・歯・首・肩・手・腹・背中・足 ・痛い A「〇〇が痛いです。」 B「〇〇で〇〇をけがしました。」 ※体の部位を指差しながら覚えさせる ※学校への連絡方法や連絡帳への書き方も合わせて指導する。 「〇〇なので、お休みします(遅刻します)」
1	6 教室にある物の名前を覚えよう	・身の回りの物、教室にある物の名前を言うことができる。	・教室にあるものの言葉→机・椅子・窓・ドア・ロッカー・黒板・本箱・掃除道具・かさ入れ・ごみ箱 ・学用品の言葉→えんぴつ・けしごむ・ふでばこ・ノート・下敷き・連絡帳・予定帳・教科書 ・「これは、〇〇です。」 ※教科書の「なんていったらいいのかな」等、挿絵を活用する。 ※教科学習に使う道具については、保護者にも知ってもらおう。 鍵盤ハーモニカ(ピアにか)・リコーダー・物差し・コンパス・三角定規・分度器・習字セット・国語辞典・漢字辞典。裁縫セット・彫刻刀・給食袋・給食エプロン・時間割
1	7 学校にある場所や物の名前を覚えよう	・学校めぐりをしながら、教室名や物の名前を言うことができる。	※実際に校内を巡ったり、友だちを案内したりして日本語と実際の場所とを一致させる。 ・「ここ(あそこ・そこ・どこ)は、〇〇です。」 A「〇〇はどこですか？」 B「〇〇はここ(あそこ)です。」 ・きょうしつ・おんがくしつ・ずこうしつ・としょしつ・しょくいんしつ・ほけんしつ・たいいくかん・トイレ・うんどうじょうなど

1	8 「〇〇の△△です」 という言い方を 覚えよう	・教室にあるものがだ れのものか言うこと ができる。	※実際に物のやりとりをしながら会話をする。 A「これは、だれの△△ですか。」 B「これは、わたしの△△です。」 ※教室にあるものだけでなく、スーパーやコンビニなど、子どもたちの生活圏のお店で売っているものの名前へと広がっていく。
1	9 書き方に気を つけよう	・濁音、半濁音、長音、 促音、撥音、拗音、拗長 音に気をつけて、書くこ とができる。	※発音させながら書かせる。繰り返し書かせて読む。 ・1年生の教科書に載っている言葉で学ばせる。→きょうかし よ・しゃしん・でんしゃ・あくしゅ・としょじつ・ぎゅうにゅ う・しょうてんがい
1	10 家族の呼び方を 学ぼう	・家族を表す用語を使っ て言うことができる。	おじいさん、おばあさん、お父さん、お母さん、お兄さん お姉さん、弟、妹など。写真や絵を使って家族紹介をする。 こちらは わたしのお母さんです。 こちらは ぼくの弟です。
1	11 カタカナを 覚えよう	・カタカナ五十音の読み 書きができる。	※カタカナの形に気をつけて書くことを意識させる。 ・国語の教科書の内容の中から学ばせるとよい。→ジャンプ・ト ラック・タイヤ・クレーン・バス・ショベルカー・マフラー・ カレンダー・ストーブなど。 ※給食の献立や机の上のものなど、身の回りの生活を切り取って カタカナ探しをする。
1	12 色を覚えよう	・色を表す用語を使っ て言うことができる。	・赤・青・白・黒・黄・緑・橙・茶・水・黄緑・紫・灰 ・「〇〇は、〇色をしています。」 ※図鑑や教室にあるものの中から色を探し出し、具体物と一致さ せて話したり、書いたりする。
1	13 形を覚えよう	・形を表す用語を使っ て言うことができる。	・まる・三角・四角・形 ・「これは、丸い ボールです。」「四角い 箱です。」 ※空き箱を並べたり、仲間わけをしたりするなど、操作活動と合 わせて覚えさせる。
1	14 数を覚えよう	・1から100までの数 の読み書きができる。	※具体物→ブロック→数字カードを使いながら「数」の読み書き に結びつけるとともに「位」を意識させる。 ※繰り返し読ませる。 ※いろいろな場面で数を数えたり、書いたりする活動を取り入れ る。 ※できれば漢数字も合わせて指導する。
2	15 天気や季節を 覚えよう	・天気や季節を表す用語 を知り、話すことができ る。	・雨・晴れ・曇り・雪・雷 ・「今日(昨日)の天気は、〇〇です(でした)。」「 今日は朝から〇〇です。」 ・春・夏・秋・冬 ・「〇〇になると水泳が始まります。」 ※指導後も日常的に尋ねたり、答えたりできるようにする。
2	16 カレンダーを 覚えよう	・曜日や月日の読み方を 覚え、使うことができ る。	※曜日や12ヶ月と関連した言葉(季節や天候)なども合わせて 表現できるようにする。 ※毎日、カレンダーを読ませたり、天気シールを貼ったりするな どしながら楽しく覚えさせる。 ※できれば、昨日・今日・明日の言葉も覚えさせる。 ・「今日は、〇月〇日〇曜日です。」 ・「明日は、〇月〇日〇曜日です。」

2	17 時計を読もう	・時計の読み方を知り、時計を見て時刻を言うことができる。	・1じ～24じ・はん・ごぜん・ごご A「今、何時（何分）ですか？」 B「今の時刻は、〇時〇〇分です。」 ・「わたしは、〇時に起きます（ねました）」 ※算数セットの時計を操作したり、デジタル時計を読ませたりして感覚をつかませる。 ※自分の生活リズムや学校生活の中の時間の流れを知り、「1時間目」「給食」など時間と合わせて必要な言葉を指導する。
2	18 数を覚えよう	・100から10000までの和の読み書きができる。	※位取り表を使いながら、正しく発音させる。 ※身近なものの数え方と合わせて指導する。 例：買い物練習などの活動の中で、ものの数え方、お金の数え方を取り入れるなど。
2	19 数え方を覚えよう	・助数詞の使い方を知り、物にあった数え方ができる。	A「〇〇が〇（個・本・冊・つ）で、いくらですか。」 B「〇〇が〇（個・本・冊・つ）で、〇〇〇円です。」 ※できるだけ具体物操作しながら、言葉にしていこうにする。
2	20 反対語を覚えよう	・反対語を知り、使うことができる。	・ある⇔ない 大きい⇔小さい 暑い⇔寒い 早い⇔遅い ※市販の反対語カードなどを利用するとよい。
2	21 漢字を覚えよう	・漢字の成り立ちを知り、覚えることができる。	・一～十・木・口・目・山・水・雨・上・下など ※「とめ・はね・はらい」を意識して書かせる。 ※漢字絵カードなどを利用して漢字の由来を説明し、理解の助けとする。 ※教科書に準じて学ばせ、教科書の文を音読できるようにする。
2	22 漢字を覚えよう	・1、2年生に出てくる漢字を読んだり書いたりすることができる。	※「とめ・はね・はらい」を意識して書かせる。 ※漢字だけを書かせるのではなく、漢字ドリルを利用して、文で覚えさせていく。 ※教科書に準じて学ばせ、教科書の文を音読できるようにする。
2	23 一日の生活用語を覚えよう	・1日の生活を振り返り、生活用語を覚えて、簡単な文で言うことができる。	※写真や絵カードを使って一日の流れを言葉で表すことができるようにする。 A「〇〇さんは、（いつ）に、（どこ）で（何をする）。」 B「私は、〇〇がしたいです。」
2	24 簡単な文を作ろう	・基本動詞を用いて、何をするのかを表現することができる。	A「〇〇〇さんは、（場所）へ行きます。」 B「あなたは、（場所）へ何で行きますか。」 C「私は、（場所）へ（交通手段）で行きます。」 ※登下校を含めて学校で一日を過ごすために必要な表現をすることができ、文にして書くことができる。 ※基本文型を視写することから始め、繰り返すことで自作の文章表記につなげる。 ※写真・絵カード・動作化をしながら、文章にする。
2	25 簡単な文を作ろう	・手段や方法、完了の用語を使って、表現することができる。	A「私は、（何）がしたいです。」 B「私は、（どこ）で（何）をします（しました）。」 C「私は、（何）をしませんでした。」 ※基本文型を視写することから始め、繰り返すことで自作の文章表記につなげる。 ※写真・絵カード・動作化をしながら、文章にする。

2	26 カタカナを覚えよう	・外来語や擬音語をカタカナで書くことができる。	・ペルー・ネクタイ・デパート・ユニホーム・ソースなど、児童生徒の身近な国や教科書に掲載されている文字を中心に書くようにする。 ・「〇〇は、ザーザーとふります。」 ・「ブラジルは、〇〇です。」 ※新聞や広告にあるカタカナを切り取ったり、写真や絵カードを見て様子を話しながら書いたりする。
2	27 簡単な文を作ろう	・手段や方法、完了の用語を使って、表現することができる。	A「私は、(何)がしたいです。」 B「私は、(どこ)で(何)をします(しました)。」 C「私は、(何)をしませんでした。」 ※基本文型を視写することから始め、繰り返すことで自作の文章表記につなげる。 ※写真・絵カード・動作化をしながら、文章にする。
2	28 電話をかけたり手紙を書いたりしよう	・電話のかけ方、対応の仕方を知る。 ・手紙の書き方を知る。	A「もしもし、〇〇さんのおたくですか?」「もしもし、〇〇学校ですか?」 B「はい、〇〇です。」 A「〇〇さんは いますか? (いらっしゃいますか)。」 B「はい、います」「いいえ、いません。」 ・「私は、〇〇さんに電話をかけます(かけました)。」 ※欠席連絡など、学校への連絡に必要な内容をロールプレイなどして、覚えさせる。 ※手紙については、相手・差出人を書くことがわかり、二〜三文程度の内容が書ける。
2	29 簡単な文を作ろう	・授受の表現を使った言い方ができる。	・ AはBに～をあげます ・「私は、〇〇さんに Oを あげます。」 ・「私は、〇〇さんに Oを もらいます(ました)。」 ※助詞「に」「を」の書き落としのないようにする。 ※書いた文は読み直したり、友達に読んでもらったりする。
3	30 簡単な文を作ろう	・形状や様子の用語を使って、説明したり質問したりすることができる。	・ ～い形容詞→かったです(～くなかったです) ・「今日の体育は、楽しかったです。」 ・「この本は、おもしろくありませんでした。」 ・「私は、元気です」「〇〇さんは、元気ではありませんでした。」 ※「～はどうでしたか」に答える形で話したり、書いたりして慣れさせる。
3	31 簡単な文を作ろう。	・感情を表す用語を使って、会話をすることができる。	・ ～がすきです ～がきらいです ・ ～がじょうずです ・「〇〇さんは ピアノが 好きです(好きではありません)。」 ※自分の好きな〇〇を絵カードにして説明させ、それについて会話につなげる活動を取り入れ、活動後に一文書かせる。
3	32 漢字を覚えよう	・2年の教科書に出てくる漢字を読んだり書いたりすることができる。	・小学2年の児童には、教科書に出てくる順に教える。 ・教科書を音読する。

3	3 3 位置を覚えよう	・場所や方向を表す用語を使って言うことができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>～に～がいます</u> <u>～に～があります</u> ・上・下・中・外・前・後・右・左 A 「みえこさんは、どこにいますか。」 B 「みえこさんは、教室にいます。」 ※「どこにいますか（ありますか）」に答える形で覚えさせる。
3	3 4 数え方を覚えよう	・助数詞の使い方を知り、物にあった数え方ができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>～が+（助数詞）+います（あります）</u> (ひとつ、ふたつ、みっつ…) (いっこ にこ…) (いっぽん にほん…) A 「何人 いますか。」「何冊 ありますか」 B 「〇人います」「〇冊あります」 ※身の回りのものの数え方を繰り返し覚えさせるとともに、日常生活の中でも「ものの数え方」を意識させる。
3	3 5 買い物をしよう	・買い物をするのに必要な用語を知り、使うことができる。	<ul style="list-style-type: none"> A 「〇〇をください。」 B 「いくらですか。」 C 「〇〇円です。」 ※「おつり」についても指導する。 ※実際に近くのお店で買い物体験ができるとよい。
3	3 6 簡単な文を作ろう	・比較、推量、希望を表す用語を使って、質問することができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>〇〇は、〇〇より〇〇</u> <u>〇〇の中で～が一番好きです</u> <u>〇〇と〇〇とどちらが〇〇ですか</u> A 「りんごとみかんでは、どちらが 多いですか。」 B 「りんごです。」 ※絵カードや動画を使って、視覚的に支援しながら、口頭練習を繰り返し行う。
4	3 7 簡単な文を作ろう	・意思や依頼、進行中の動きを表す用語を知り、使うことができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>私は～たいです</u> <u>私は～たくないです</u> ・<u>～てください</u> <u>～ています</u> ・「テレビを見ています」 ・「公園へ 遊びに 行きます。」 ・「電気を つけてください。」 ※依頼については、直接的な表現であるため「すみませんが」などの表現と一緒に使うように指導する。
4	3 8 簡単な文を作ろう	・許可や禁止の指示の表現を知り、使うことができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>～てもいいですか</u> A 「色を めっても いいですか。」 B 「はい、どうぞ」 A 「廊下を 走ってはいけません。」 B 「いいえ、走ってはいけません。」
4	3 9 絵日記を書こう	・したことを短い文と絵で表すことができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・学校生活の一場面を切り取って写真にするなどして、いつ・どこで・何をして・どう思ったか等が書けるようにする ・書き方のモデルを提示し模倣するところから始める。
4	4 0 作文を書こう	・覚えた漢字を使って、文を書くことができる。	<ul style="list-style-type: none"> ※「は」「へ」「を」「に」「で」を気にさせる。 ※主語と述語を組み合わせた文作りからはじめる。